

病害虫発生予察注意報（第1号）

令和6年4月3日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）

作物名：果樹全般

1 発生地域：県下全域

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- (1) 昨年は、カメムシ類の餌であるヒノキ球果の着果量が県内全域で多かった。そのため新世代成虫が増殖し、ヒノキ樹上のチャバネアオカメムシ成虫捕獲数は8月下旬以降平年より多くなり、9月下旬に急増した（図1）。ツヤアオカメムシの成虫捕獲数も9月下旬、同様に急増した（図2）。この時期に発生した成虫の多くが山林で越冬したと推察される。
- (2) 2024年3月上旬に実施した、山林における落葉中のチャバネアオカメムシ越冬調査では、捕獲数が2014年以降、3番目に多い（図3）。
- (3) 2024年3月上旬に実施した、カンキツ樹冠内で越冬しているツヤアオカメムシの叩き出し調査では、捕獲数が12.0頭と、平年（3.2頭）の4倍に近い値となっている。2014年以降の調査では、最多となっており（図4）、記録が残っている2006年以降でも最多となっている。
- (5) 以上より、多くの越冬世代成虫が4月以降、果樹園などに飛来すると考えられ、今後着果するウメ等への被害が多くなると予想される。

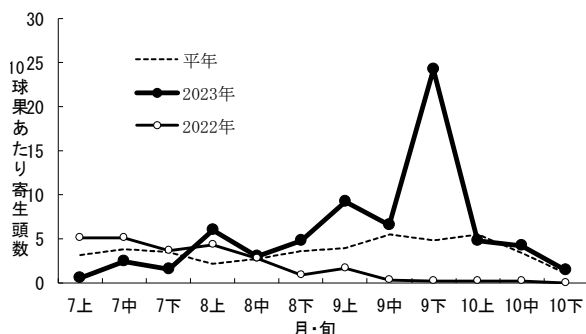


図1 ヒノキ樹上におけるチャバネアオカメムシ成虫捕獲数の推移（5地点平均）

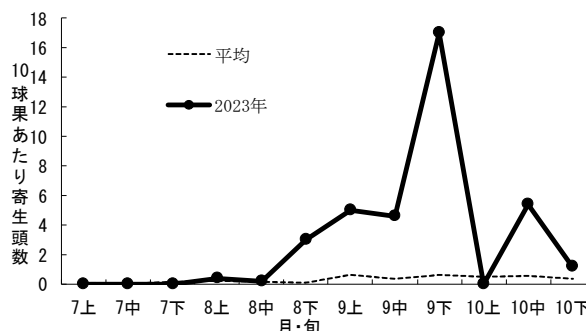


図2 ヒノキ樹上におけるツヤアオカメムシ成虫捕獲数の推移（5地点平均）

※平均は、2013-2016および2020年の計5年間の平均

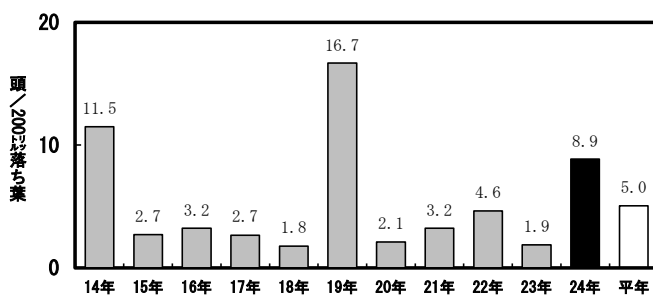


図3 チャバネアオカメムシ越冬数（県内7地点平均）
*平年は過去10年平均

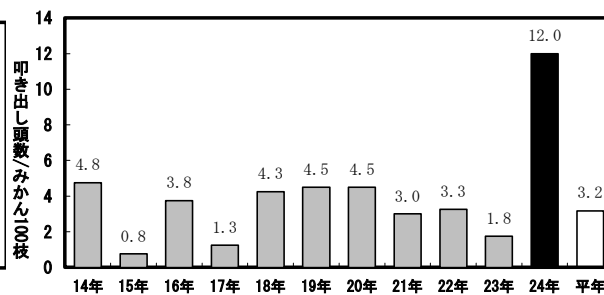


図4 ツヤアオカメムシ越冬数（県内4地点平均）
*平年は過去10年平均

4 防除対策

- (1) ほ場内外を見回り、発生を認めたら直ちに防除を行う。
- (2) 黄色防蛾灯がチャバネアオカメムシに有効とされている。
- (3) カメムシ類に適用のある防除薬剤を下表に示した（令和6年度県病害虫雑草防除指導指針掲載農薬）。なお、農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し使用基準を遵守する。

表 防除薬剤（○は、2024年4月2日現在、登録有り）

薬剤名	IRAC コード	農薬登録の有無				
		ウメ	柿/フルーツ	カンキツ	ナシ	カキ
スミチオン水和剤40	1B				○	○
キラップフロアブル	2B					○
アグロリン乳剤	3A		○	○		
アグロリン水和剤	3A			○	○	○
アーデントフロアブル	3A				○	○
スカウトフロアブル	3A	○			○	○
テルスター水和剤	3A			○	○	○
テルスターフロアブル	3A	○	○	○	○	○
マブリックEW	3A			○	○	○
ロデイー乳剤	3A			○		
ロデイー水和剤	3A				○	○
パーマチオン水和剤	3A+1B				○	○
アクタラ顆粒水溶剤	4A	○		○	○	○
アルバリンまたはスタークル顆粒水溶剤	4A	○	○	○	○	○
ダントツ水溶剤	4A	○	○	○	○	○
バリアート顆粒水和剤	4A				○	
モスピラン顆粒水溶剤	4A			○	○	○

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002>